

## 迷い出たダンゴムシのたとえ

早瀬 和人

奨励者紹介〔はやせ・かずと〕

日本キリスト教団宇治教会牧師

宇治教会附属愛児園園長

「これらの小さな者を一人でも軽んじないように気をつけなさい。言うておくが、彼らの天使たちは天でいつもわたしの天の父の御顔を仰いでいるのである。あなたがたはどう思うか。ある人が羊を百匹持っていて、その一匹が迷い出たとすれば、九十九匹を山に残しておいて、迷い出た一匹を捜しに行かないだろうか。はっきり言うておくが、もし、それを見つけたら、迷わずにいた九十九匹より、その一匹のことを喜ぶだろう。そのように、これらの小さな者が一人でも滅びることは、あなたがたの天の父の御心ではない。」

(マタイによる福音書 18章10—14節)

### 迷える小羊は臆病

「私は迷える小羊。迷子の羊なの・・・」と、自らを小羊にたとえることはありませんか。

聖書辞典で調べてみますと、

「羊は・・・臆病で自衛力がなく、地理のわきまえないので迷いやすい。そこから、神から離れて迷う人々の形容とされた」と説明がありました(『新共同訳聖書・聖書辞典』新教出版社 2001年)。確かに旧約聖書にも「わたしたちは羊の群れ／道を誤り、それぞれの方角に向かって行った」(イザヤ書53章6節)と記されている。なんだか自分のことを言われてるみたいだなあ、と思われた方も多いのではないのでしょうか。

### 迷える小羊は残酷

マタイによる福音書18章に記された有名な、迷い出た羊のたとえ話を読んでいただきました。

私たちは臆病で迷いやすく弱々しく見える羊にたとえられるわけですが、実は非常に残酷なところがある。とにかく自分が羊であることを拒み、弱く小さくなんかなりたくない。なりそうになるものなら、周りを蹴落としてでも這い上がろうとする。そこで、蹴落とされひとりぼっちになった羊のことに思いを寄せながら語られたのがこのたとえ話です。イエスさまは、世の人々に蹴落とされた小さな人たちのことを決して忘れはしません。「これらの小さな者が一人でも滅びることは、あなたがたの天の父の御心ではない」(マタイによる福音書18章14節)と言われるのです。福音書はそのような者たちこそが、一番に神の国に招かれると訴えています。他者を蹴落としてまで、大きく偉くならうとする生き方に対してイエスさまの眼差しは実に厳しいものがある。ですから「たったの一匹だけじゃん」と思うなかれ。神さまの視線の中では、その一匹がとても大事だったわけです。

今日の聖書は、羊飼いにたとえられたイエスさまが「一」をどこまでも大切にし、どこまでも探し出し、決して見捨てることはなさらない、そういうお方であることを教える箇所と言えましょう。今の日本が追い求め続けている経済至上主義。この弊害は、増々蹴落とされてゆく「羊」を生み出してゆくことではないでしょうか。何とかしてこの流れを食い止めないといけなのに、一向に止めようとする気配が見えてこない。悲しい社会です。

### ♪ダンゴムシの歌♪

ところで私は今、宇治教会附属の幼児施設でも働きの場が与えられています。子どもたちと一緒に守る合同礼拝の時、次のようなお話をしてみました。

時は2016年4月。場所は宇治山本にある「ダンゴムシ幼稚園」。ここに100匹、いや30匹のダンゴムシがいた。

——ダンゴムシ先生

「さあ、公園に行って遊びましょう」

——子どもダンゴムシ

「やったぜ。今日は何して遊ぼうか。ねえ、二人三脚して遊ばない？」

「無理無理。どの足とどの足を結んだらいいのか分かんないじゃん」

(ダンゴムシの二人三脚レースって、どんなレースなのでしょう。一度見てみたいですね)

——ダンゴムシ先生

「さあ皆さん、気をつけてくださいよ。幼稚園の門から外に出ると長～い坂道が続いているから、一歩足を滑らすと宇治橋まで転がってしまいますよ。分かった人？」

——子どもダンゴムシ

「ハ～イ」「オッケー」「うんうん」

ところが、調子に乗ってスキップをしていた年長さんのダンゴロウが大変なことになりました。(皆さんは、ダンゴムシのスキップって見たことがありますか?)

——ダンゴムシのダンゴロウ

「わ～、どないしよう。短い足が絡まっちゃった。あれれれ、止まらないよ～」

ダンゴロウは、コロコロコロコロ、宇治橋近くまで転がってしまいました。「さあ、愛児園のお友だち。♪ダンゴムシの歌♪を歌いながら、迷子になったダンゴロウを探しに行きましょう。」

### ♪ダンゴムシの歌♪

ダンゴムシ(ダンゴムシ)、探しに行こうよ～

見つけたよ(見つけたよ)、プランターの下で～

コロコロコロコロ～、転が～って

(あれ?どっか行っちゃった。ねえママ、探して～)

〇〇ちゃんのポケットのなか～(※)

(※) ○○のところを自由にかえて歌うことができます。たとえば、△△先生の～靴下のなか～。おかあちゃんのおへそのなか～、などなど。

(作詞作曲 早瀬和人)

この春、園児たちがダンゴムシ探しをしている光景を見ていたら、思わずこのような歌を作詞作曲してしまいました。園では現在も大ヒット中です。

### ♪ダンゴムシの歌(大人バージョン)♪

さてある日のことです。「園長先生、見て。愛児園で、ちやう、世界でいっちゃんおっきい(一番大きい)ダンゴムシやで!」と年長さんのお友だちが見せてくれました。

「どれどれ」と手に取った瞬間、コロコロと転がってしまった。「園長先生、ちゃんと探してや!」と言われたのですが、見つかりません。私はつい、「ホンマごめんな。でも心配せんでええ!もっとおっきいのいっぱいあるはずやから・・・」「そんなんアカン。さっきのがいっちゃんデカかったんやから!」

(悪いことしたなあ)と反省しきりでした。

しばらくしたある日のこと。あるお母さんが、「うちの子がダンゴムシを大量に部屋の中まで連れてきたんです。『もう、早く外に出してきて!』と声をあげてしまい、子どもを悲ませてしまいました。その日の夜、私、夢にダンゴムシが出てきたんですよ」と話してくださいました。(そりゃ大変だ。お気の毒に・・・)と思いながら生まれたのが、♪ダンゴムシの歌(大人バージョン)♪です。

### ♪ダンゴムシの歌(大人バージョン)♪

ダンゴムシ(ダンゴムシ)、探しに行こうよ～

見つけたよ(見つけたよ)、プランターの下で～

コロコロコロコロ～、転が～って

(あれ?どっか行っちゃった。ねえママ、探して～)

ママ「そんなのどうでもいいじゃない。たったの一匹だけでしょ。まだまだたくさん手の中にあるでしょ～」

子ども「ダメだよ、お母さん。一緒に探そうよ。見つけたよ、見つけたよ、ママの靴の中～」

コロコロコロコロ～、転が～って

(あれ?どっか行っちゃった。ねえママ、もう一回探して～)

パパとママの夢のなか～

(作詞作曲 早瀬和人)

### たとえ転がり落ちて

人間、誰もが転がってしまう経験をもつのではないのでしょうか。たとえ転がってしまったとしても、イエスマの御手の中にあり、復帰がゆるされている。そう信じ、この喜びを静かに感じ受け止めたいのです。あるいはまた、自分は転がってなくても、誰かが転がっていて、寂しい思いをしていたり、しんどい思いをしているならば、(たった一匹、いや一人の問題や。自己責任や。俺には関係ない)と眼差しを避けてしまうの

ではなく、イエスさまに倣って探し出すお手伝いができたらなあ、と願ってやみません。

いずれにせよ、この迷い出た「一」のことが大事で、この「一」を何とかして元の圏いに戻すために必死になってくれているキリストの愛があるからこそ、今の私たちは生きてゆけるのではないだろうか、という気づきもちたいのです。そしてこの気づきもてたことにより、(なんて神は愚かなことをするんだろう。でもこの愚かさがないと、一体だれが救われるというのか。この神の愚かさを喜びながら生きてゆきたい…)と告白できたら、どんなにか心軽やかになることか、と信じています。

2016年6月29日 京田辺水曜チャペル・アワー「奨励」記録